

横浜市における サイクルシェアリング・カーシェアリング の取組



横浜都心部コミュニティサイクル 「baybike」の取組



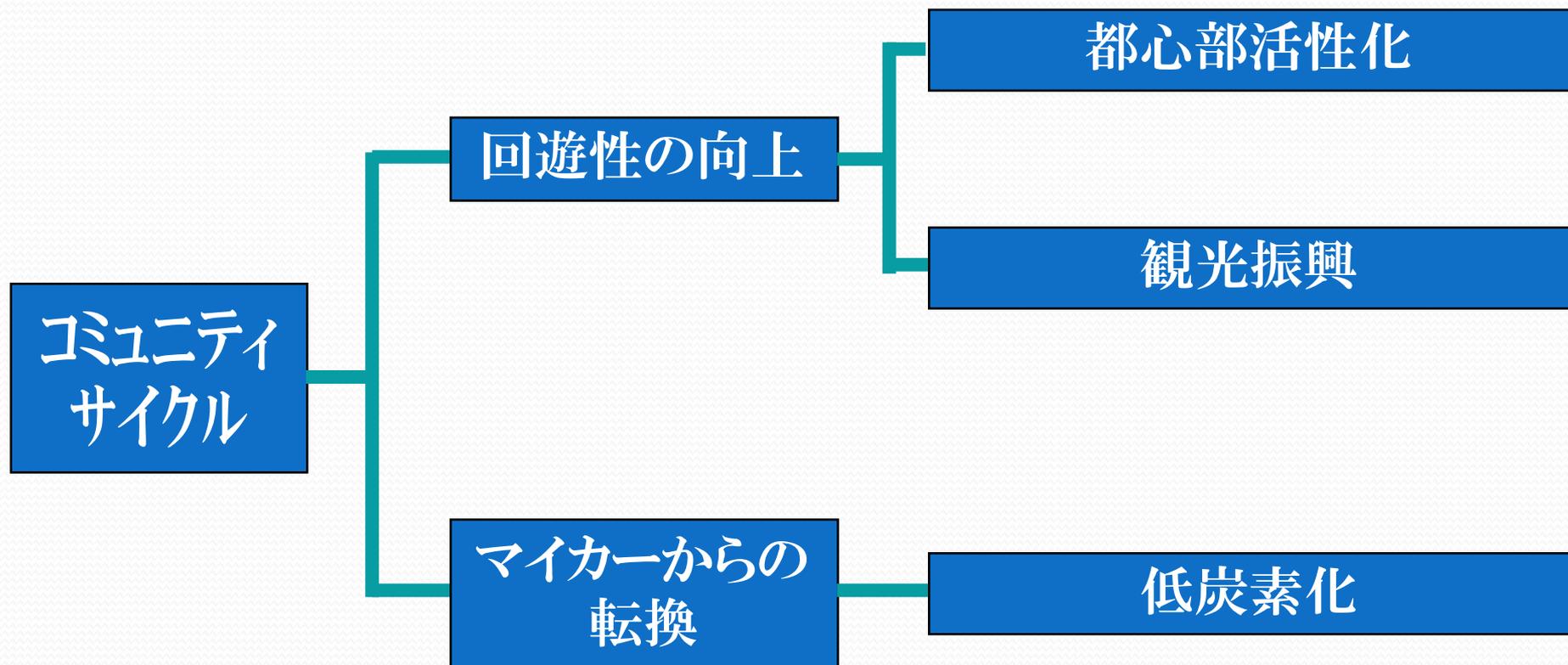
横浜都心部の概要



目的と期待される効果

〈目的〉

〈効果〉



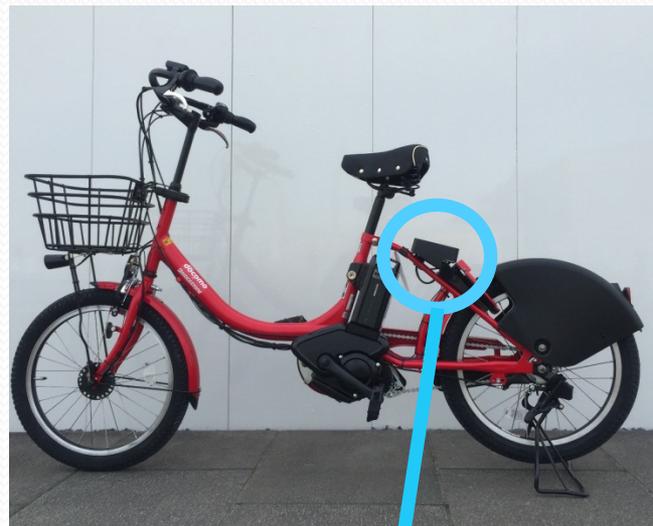
コミュニティサイクルの概要

- **期間:**平成26年4月1日～平成31年3月31日
(最大10年間まで延長)
- **地域:**みなとみらい地区、関内地区を基本
(順次規模拡大を図ります)
- **規模:** **自転車400台、貸出・返却拠点38箇所**
- **体制:** (実施主体)横浜市 都市整備局
(運営主体)株式会社ドコモ・バイクシェア

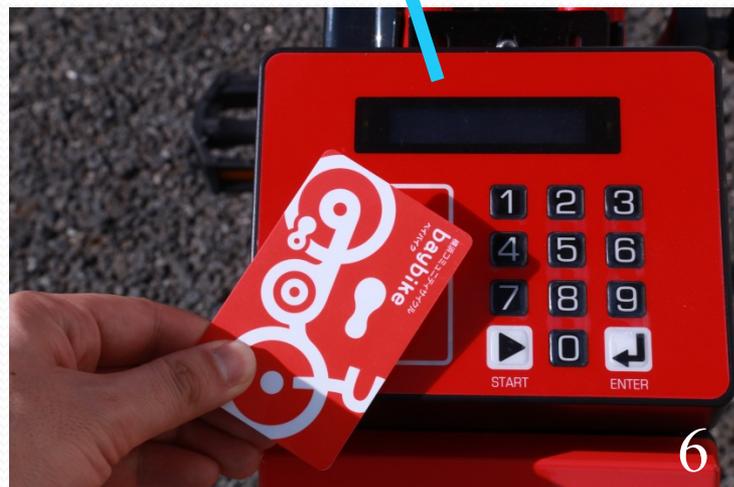
利用方法



ポートサイズ:約5m×2.0m
(1か所あたり駐輪機器 5~28台)



操作パネル



料金、時間

- **料金**

- **登録料金** 無料

- **利用料金**

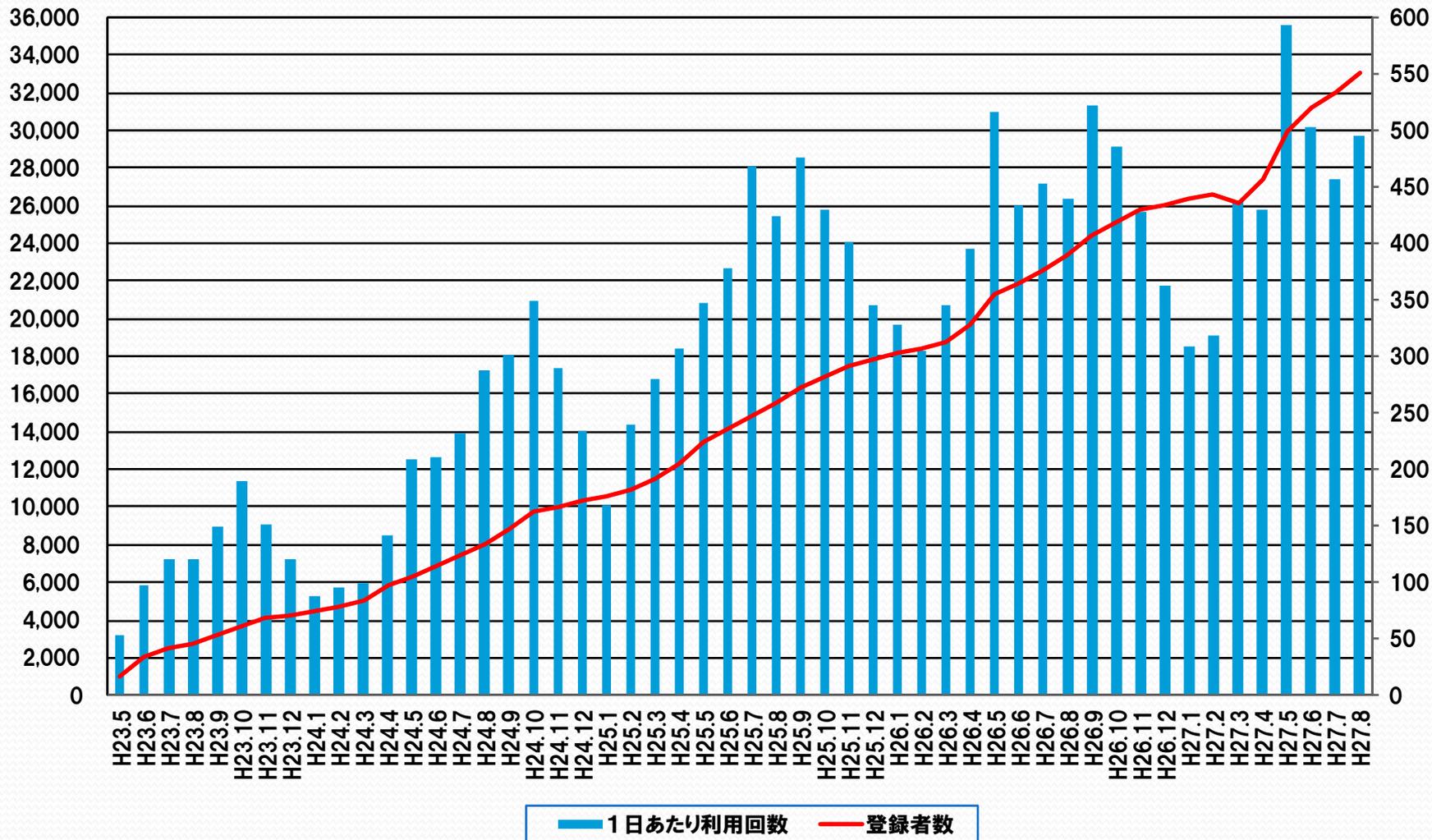
	基本料(税抜)	利用料(税抜)	予約
1回利用	150円/回	最初の30分 0円 超過30分毎 150円	ご利用の30分前 から予約可
月額会員	2,000円/月		
法人会員	2,000円/月		—

- **時間** 6:00~22:00

登録者数、利用回数の推移

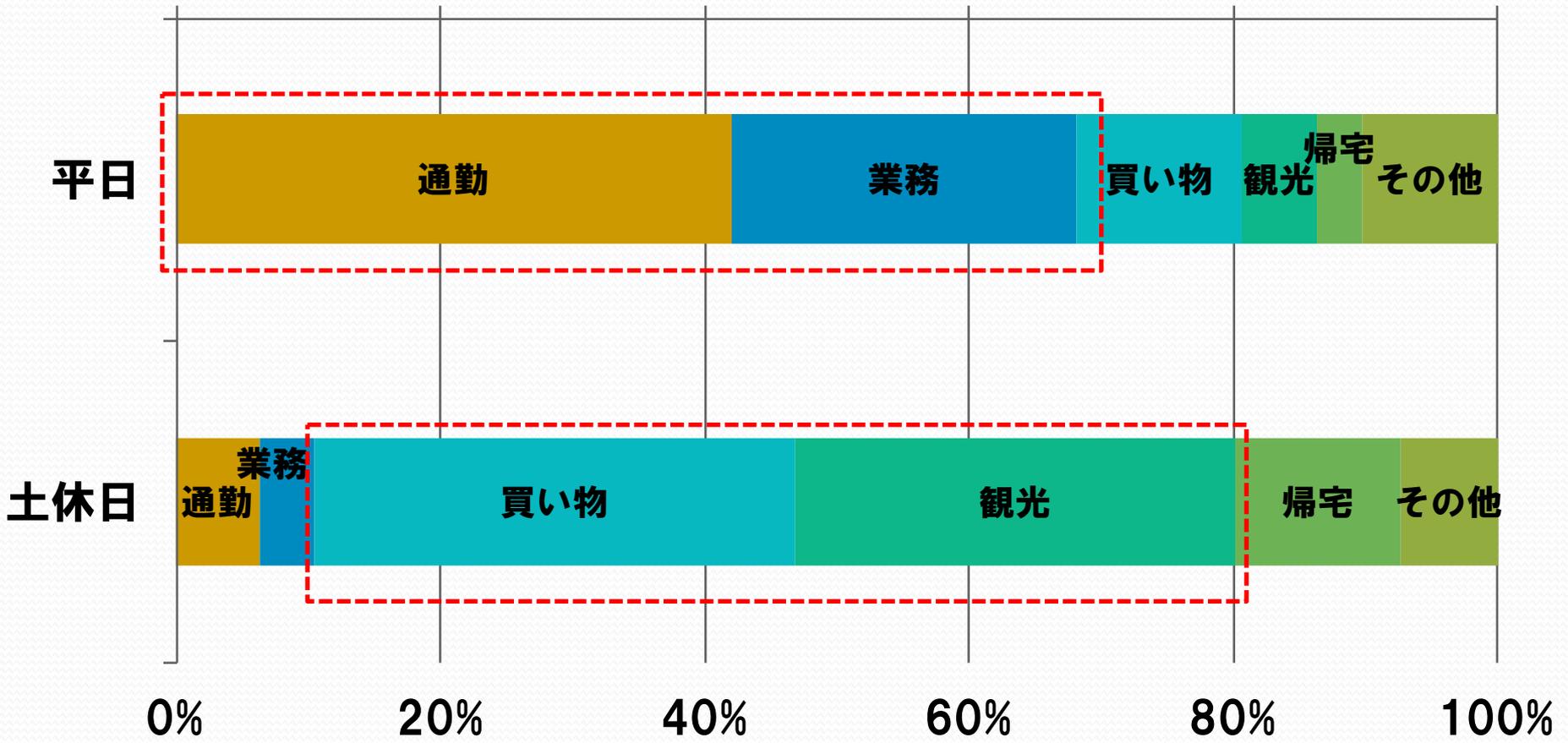
登録者数(人)

1日あたり
利用回数(回)



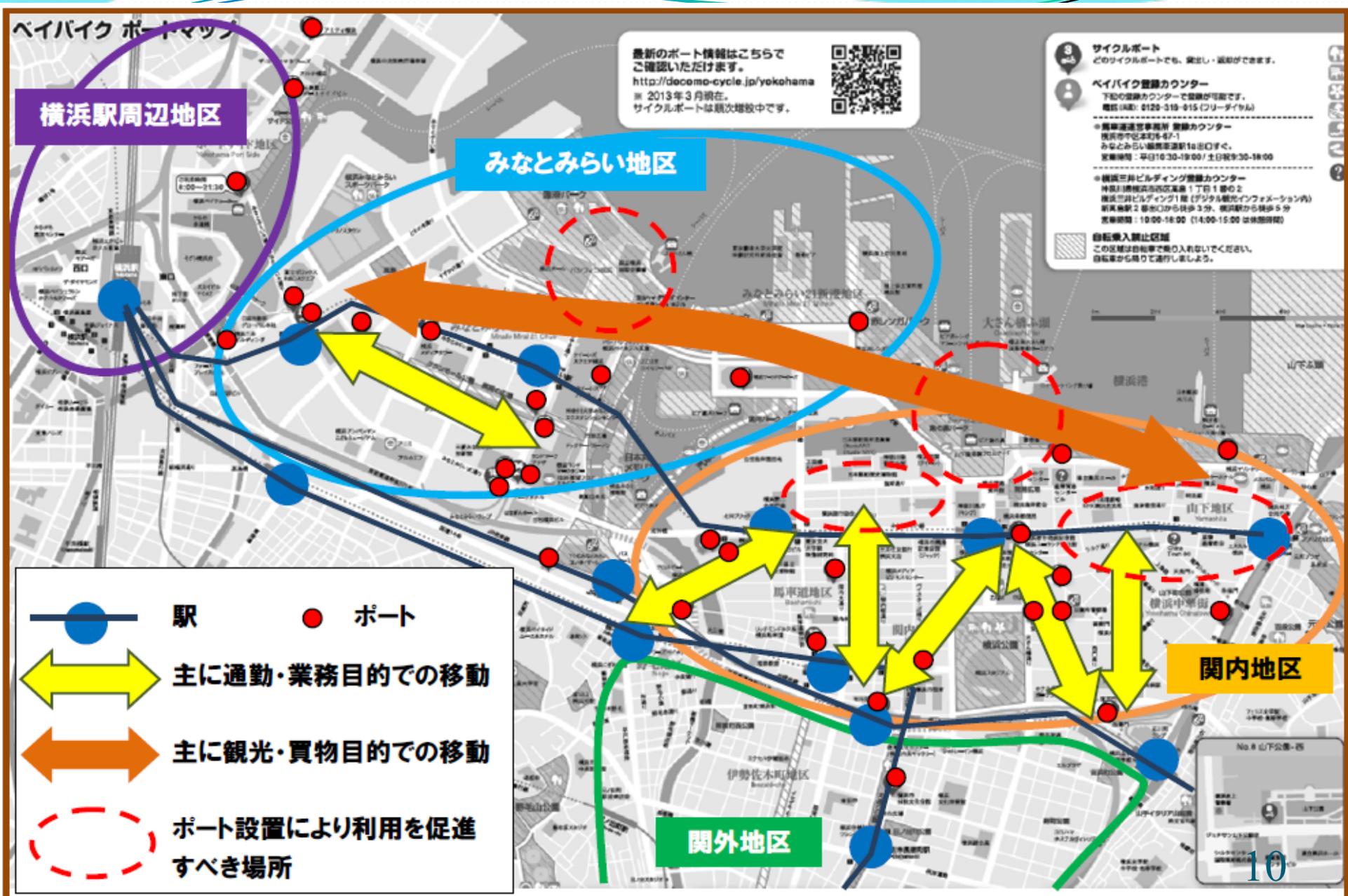
利用目的（利用者へのヒアリング調査）

平成24年度



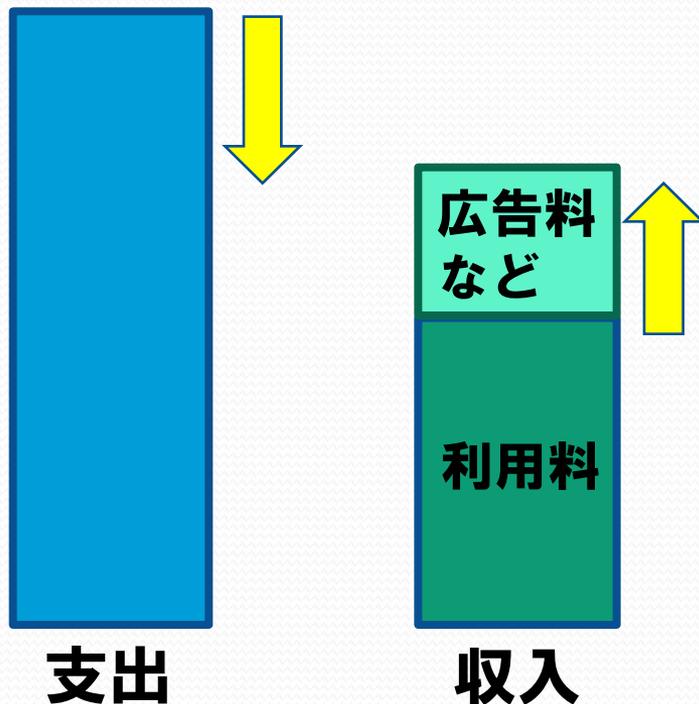
主に、平日は通勤・業務に使われ、休日は買物、観光に使われている。

利用のイメージ



採算性の確保

- 自転車の利用料で採算性を確保することは難しい。
- 運営の効率化による支出減とともに、自転車の**車体広告**などの実施が必要。



自転車通行の安全性・快適性の向上

- H24年度 MM21地区に**自転車レーン**を設置
(道路延長0.65km)



ポート設置場所の質の向上と量の拡大

- 利用促進のため、**利便性・視認性の高い場所**に設置が必要。
- 利便性向上のため、**ポートの増設とエリアの拡大**が必要。



認知度を向上させるための取組

- **交通広告の活用**
- **雑誌、ラジオ、新聞等のメディアを通じた広報活動**



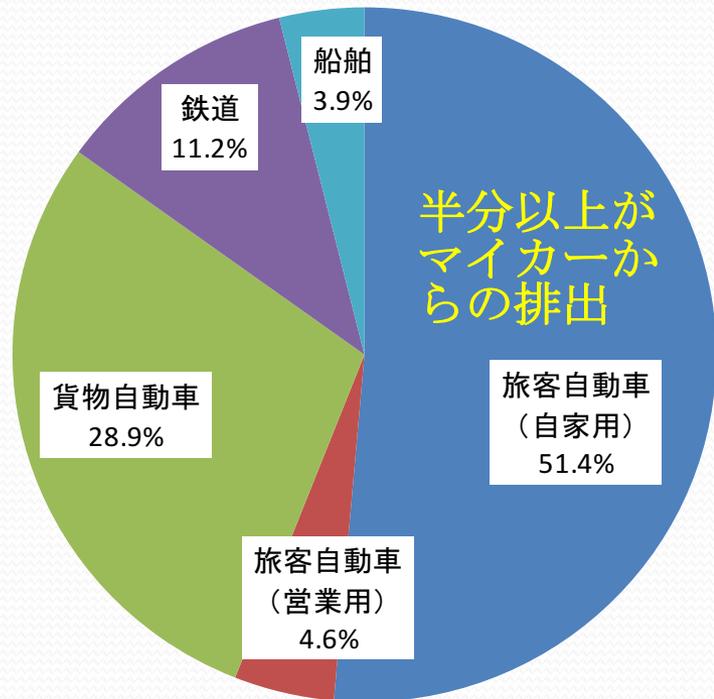
低炭素型次世代交通の普及促進の取組 「チョイモビ ヨコハマ」



横浜市の運輸部門におけるCO2排出量抑制の取組

運輸部門の二酸化炭素排出量（2013年度）

横浜市地球温暖化対策実行計画（平成26年3月）



○運輸部門の取組方針（H22年データをベース）

自動車からの排出の詳細は、旅客自動車（自家用）が最も多く、運輸部門全体の52%を占めている。

削減するためには、自動車単体の対策としてクリーンエネルギー・低燃費・低排出車の普及に向けた取組の推進が必要。

また、過度にマイカーに依存するライフスタイルを見直し、徒歩・自転車・公共交通を中心とした移動への転換推進が必要。

「横浜市 中期4か年計画 2014～2017」

施策 33

環境未来都市にふさわしいエネルギー施策と低炭素なまちづくりの推進

3 低炭素型次世代交通の普及促進

所管局

環境創造局、都市整備局、
温暖化対策統括本部

水素等の活用に向けて、燃料電池自動車等をはじめとした次世代自動車の普及を図ります。また、超小型モビリティ等を活用した大規模シェアリングや都心部におけるコミュニティサイクルなどの取組を推進します。

キーワード①

① 自動車単体対策



(同じ走行台キロならば、燃費が2倍になればCO2排出量は半分になる。)

- ・ターボと小型エンジンの組み合わせによる燃費向上
- ・環境性能と燃費性能を両立させたクリーン・ディーゼル
- ・大幅な燃費向上を実現したプリウスなどのハイブリッド
- ・走行中のCO2排出の無い、リーフなどのEVやMIRAIなどのFCV



27年度末水素ステーション設置予定：固定4カ所、移動2カ所



キーワード②

② ライフスタイルの見直し



(基礎的なインフラの整備が必要、交通弱者への対応など幅広の施策が重要)

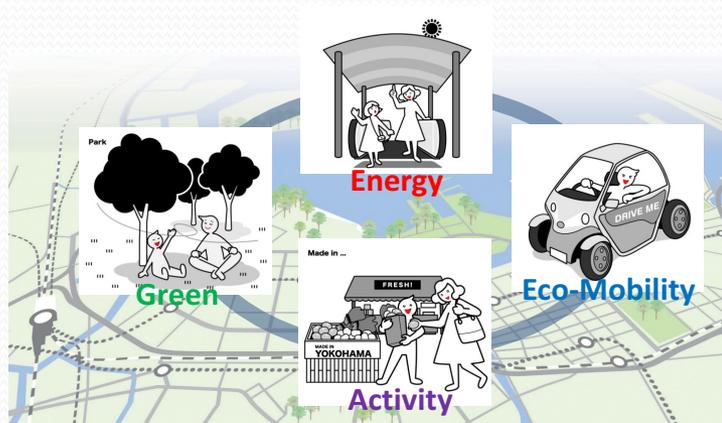
- ・ 過度にマイカーに依存する生活スタイルからの脱却
- ・ 徒歩や自転車、バスや電車などの公共交通を中心とした移動
- ・ 車を所有する生活からシェアリングへの転換

所有



共有

確実に走行キロが減少し、排出量も減らすことができる。また、環境面だけでなく、健康面や経済面でもプラスの効果が見込める。



チャイモビヨコハマ 実施概要

日本では最大規模の
超小型EVを活用したワンウェイカーシェア



■超小型モビリティを使用したワンウェイ型カーシェアリングの実証実験

- ・ 期間 : 2013年10月11日～2015年9月30日
- ・ 規模 : 車両50台、貸渡・返却ステーション約60か所 (駐車枠約110台分)
- ・ 利用料金 : 30円/分 (基本プラン)

チョイモビヨコハマ 利用方法等

■会員登録

専用サイトから会員登録し、安全運転講習を受講して会員カードを取得

(講習会・カード発行手数料1,000円)

※会員登録条件

- ・日本の自動車運転免許を取得していること
- ・eメールを受信できるスマートフォンやタブレットを所有していること
- ・日本国内発行のクレジットカードで決済できること

■利用方法

①チェックイン

(空いているチョイモビと降車ステーションを選択)

②出発

③返却



■利用料金

	基本プラン	サポータープラン
月会費	無料	1,000円
無料利用	0分/月	50分まで/月
利用料金	1分/30円	50分以降 1分/20円

チョイモビヨコハマ 利用実績

■登録会員数：約13,000人

■主な利用実績：

- ・ 1日平均利用回数：約80回
- ・ 延べ利用回数：約56,000回
- ・ 延べ利用距離：約220,000km

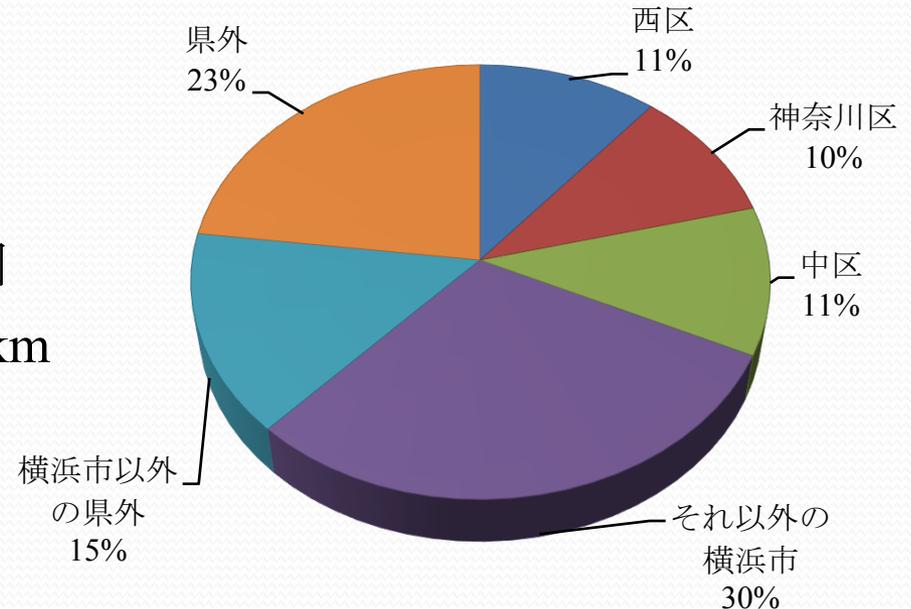
※1回あたりの利用実績

- ・ 利用時間：約13分
- ・ 移動距離：約3km

■主な利用目的

- ①観光・レジャー
- ②日常の買い物、用足し
- ③車両の試乗

会員の居住地域



■利用者からの主な意見

- ・ 非常に良いサービス
- ・ 形が可愛いらしい
- ・ 全国展開してほしい

チョイモビヨコハマの新たな展開

- 超小型モビリティによる大規模なワンウェイ型カーシェアリングの実証実験は平成27年9月30日をもって終了
- 引き続きチョイモビをご利用いただけるよう、「新たな取組」として再スタート
 - ・利用目的として最も多かった「観光・レジャー」での利用に着目
 - ・交通結節点となる鉄道駅周辺の日産レンタカー店舗を車両の貸渡・返却場所として運行
 - ・横浜の観光地を中心に、専用の無料一時駐車スペースを配置（赤レンガ倉庫、大さん橋など、約40箇所、約80台分）

■車両の貸渡・返却場所

■取組概要

- ・実施主体：日産自動車、横浜市
- ・実施期間：平成27年10月26日
～平成28年3月15日（予定）
- ・貸渡・返却場所、運行台数
：4カ所、10台
- ・利用料金：1,080円／1時間（税込）
1日最大8,640円



● ご清聴ありがとうございました。

